

## 情報社会の自由と安全



中央大学 理工学部  
情報工学科  
教授 辻井重男

青春の日にフランス革命に感激した哲学者ヘーゲルは、“歴史とは、人間の自由拡大の過程である”ととらえたが、現在、我々は工業社会から情報社会への変革の中で、人間の自由は拡大しつつあると見てよいのだろうか。自由が単調に増加していると楽観することはできないが、インターネットの普及に伴って、個性的に活動している人々を見ると、ヘーゲルの法則とでも言うべきものが成り立つ側面も否定できない。自由の拡大は結構なのだが、自由には自己規律・責任が伴わねばならない。しかし、複雑で深度の深い技術社会では、自己責任にも限界があるから、個人が自由に活動する舞台としての情報ネットワークは、安全で信頼性の高いものでなければならない。つまり、情報セキュリティは、情報社会のインフラストラクチャなのである。

企業レベルで考えれば、従来、情報セキュリティをローカルで付加価値的なものとみなしてきたのに対し、ここ数年、ネットワークのオープン化に伴って、情報セキュリティをインフラストラクチャとしてとらえるような意識もようやく高まりつつあるかに見受けられる。米国系の企業では、経営理念に直結する形でセキュリティポリシーを確立し、ガイドラインを策定し、リスク分析を行い、システム監査やモラル教育体制を整え、また、人事面では、従来のCIO(Chief Information Officer)と並んで、CISO(Chief Information Security Officer)を置くところも増えつつあるようだ。

また、国家社会のレベルで見れば、米国では、1997年10月、大統領の諮問委員会が、ライフラインへの情報ネットワークを介した攻撃を含む社会の安全を脅かす諸々の不安要素を分析し、社会的安全を向上させるための施策を大統領に勧告している。我が国でも内閣と諸省庁間の連携を強化し、こうした課題を検討する体制を確立すべきであろう。

情報セキュリティの向上に関しては、技術、法制度、倫理等の面から総合的に、かつ国際的視点に立って、対応を深めていかねばならない。日本は、不正アクセスが犯罪にならない珍しい国である。ネットワーク化の浸透や電子経済の普及に伴って、これでは困ると考える人も増えてきたようである。国際問題としては、日本人が、日本に居ながらA国のコンピュータに不正アクセスして日本政府に訴えられても、政府は、いわゆる双罰主義の原則によって罰し

ようがないのである。また、公開かぎ(鍵)認証等を業とする認証機関(Certification Authority: CA)が日本でも幾つが設立されているが、ネットワーク時代には、互いに他国のCAを利用するケースも考えられる。この場合、国際間で各々の認証を認め合うことが有効であり、そのためには、CAに課せられる要件が互いに同程度のものであることが望ましい。ドイツのデジタル署名法には、そのことが明記されている。ドイツに限らず欧米を中心にCAに関する法制度が整備する中であって、我が国も、社会安全、産業振興、そして個人情報保護の間のバランスを図りつつ、国際整合性のある法制度を整えていくことが求められている。

次に、情報倫理について考えてみたい。倫理という言葉が固ければ、サイバースペースにおけるルールと言い換えてもよい。倫理を考える場合、カントの定言命令とベンサムやミルの功利主義という二つの異なった立場があると言われている。しかし、素人の私には、カントの言う普遍的立法の原理と最大多数の最大幸福という功利主義の立場は、底流でフィードバックグループをなしているように思われる。これからは、両者の立場を大いに連携させて、住みよいサイバー社会を築いていくべきではないだろうか。

最後になったが、情報セキュリティ技術について触れておきたい。情報セキュリティ技術も膨大な体系をなすことは、本誌からももうかが(窺)える。暗号については、例えば三菱電機からも共通鍵暗号に対する線形解読法やそれを踏まえたMISTY暗号のような国際水準を抜く成果が生まれており、日本の暗号技術も世界有数のレベルに達している。ここで暗号は、情報セキュリティという守りの技術の要素技術であると同時に“電子マネーなどをつくる”という社会変革力を秘めた攻めの技術であることを強調しておきたい。

いずれにしても、暗号は重要な要素技術であるが、単独に使われるというよりハードウェアあるいはソフトウェアとして情報セキュリティシステムや情報ネットワークに組み込まれることが多いから、日本の暗号技術が国際市場で伸びていくためには、システムコンセプト形成能力やソフトウェア産業力・情報産業力、更に言えば、貿易面での外交能力や、先に述べた法制度やモラルまで含めた情報文化力とでも呼ぶべき国力の向上を急がねばならない。